



大阪公立大学共同出版会

ニュースレター

No.14

Osaka Municipal Universities Press (OMUP)

新年のご挨拶



大阪公立大学共同出版会
理事長
三田 朝義

大阪府立大学の2大学に跨る共同出版会となり、さらには出版会の母体である両大学とも公立大学法人に変革しました。昨今の若者達の読書離れがどんどん進行し、知を創造する力や情緒力が衰退しつつある中であって、それらを育てなければならない大学、さらには大学出版会の果たす役割は益々大きくなると思います。

今後ともいっそうのご支援を賜りますようお願いして新年の挨拶とさせていただきます。

大阪公立大学共同出版会
理事長
三田 朝義

目次：

- ・ 新年のご挨拶 1
- ・ OMUP は NPO 法人として新たな一步を踏み出しました 1
- ・ 大阪公立大学共同出版会(OMUP)創立 5 周年・NPO 法人化記念「関西圏大学出版会ブックフェアと講演会シリーズ」を終わって 2
- ・ 第 14 回 OMUP サロン(公開)の案内 3
- ・ 新刊書の案内 3
- ・ 日本環境変異原学会で展示販売 4
- ・ 新顔登場 4
- ・ 編集後記 4

OMUP は NPO 法人として新たな一步を踏み出しました

常務理事 小股 憲明

会員の皆さま、明けましておめでとうございます。

さて、かねて懸案であった OMUP の NPO 法人化の作業を鋭意進めて参りましたが、2006 年 11 月 1 日、大阪府知事より NPO 法人の設立が認証されました。そして、同 11 月 9 日、大阪法務局堺支局において、法人の設立登記を済ませました。これによって、OMUP の正式名称は、「特定非営利活動法人大阪公立大学共同出版会」となりました。

法人化にともなって、毎年大阪府に対して、予算・決算を含む活動報告書を提出する義務が生じますし、企業会計に則った会計処理や税務申告が必要となりますが、この点についてはす

で杉本会計事務所と契約して、遺漏の無いように処理致しております。従来に比して手間はかかりますが、このようにして法人の情報をきちんと開示することによって、OMUPの社会的信用を高め、より広く支持され愛される出版会として発展できるものと考えています。

法人の定款第3条(目的)は、「この法人は、公立大学における教職員と、この法人の趣旨に賛同する者の自主的な参加を得て、研究・教育成果の発表を助成し、また民間出版社において採算上刊行を引き受けないような優良学術図書の刊行頒布の事業を行い、もって広く市民や学生に大学における学術研究の成果を還元するとともに、地域における学術の振興および文化の発展に貢献することを目的とする。」と定めています。この目的にそって、OMUPの新たな発展を目指しますので、会員各位のご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、現在OMUPの事務局は大阪府立大学大仙キャンパス内にありますが、同キャンパスの大阪女子大学は、この3月に中百舌鳥キャンパスに移転します。そのため、中百舌鳥キャンパスにおいてOMUPの事務局を確保できるよう、関係各位にご尽力願っているところです。

大阪公立大学共同出版会(OMUP)創立5周年・NPO法人化記念「関西圏大学出版会ブックフェアと講演会シリーズ」を終わって(報告)

常務理事 足立 泰二
編集長 金井 一弘

ブックフェアの報告

このフェアは、2006年がOMUP創立5周年にあたり、また任意団体からNPO法人への移行を計画している年度でもあり、何か記念になるイベントを開催しようという機運が高まる中、5年間の出版物を一堂に展示できるブックフェアが最も相応しいイベントであろうとして常務理事会に提案されました。

その会場として、当初は大阪府立大学の学術交流会館なども考えられていましたが、より一般にアピールできる場として書店、それも交通の便の良い梅田界隈の大手書店で開催しようということになり、編集長が日ごろ懇意なジュンク堂書店大阪本店長に相談を持ちかけたところ、快く会場を提供していただくことになりました。

さらにブックフェアについて、常務理事会で議論を重ねる内に、OMUP単独ではなくOMUPが呼びかけ、関西圏の他の大学出版会も参加する規模の大きなブックフェアにしようという方向に発展しました。そこで常務理事より各大学出版会ないしは出版部に声をかけたところ、幸いにも日



本大学出版部協会関西支部を構成する5大学出版部・会のうち、京都大学学術出版会を除く、大阪経済法科大学出版部、大阪大学出版会、関西大学出版部、関西学院大学出版会の4大学出版会が参加の意向を示されたほか、OMUPの創立時にご協力いただいた三重大学の出版会、そして最近出版会を立ち上げられた富山大学が近隣地区と言うことで参加を申し出られました。

ほぼ企画が決まった段階の9月27日(水)には、ジュンク堂書店大阪本店にて各大学出版会の担当者にもご出席いただき、会場の下見と綿密な打ち合わせを行いました。この打ち合わせで、ジュンク堂書店のフェア担当者より当初1ヶ月間の予定であった会期を2ヶ月間に延長したいとの要望があり、また設営の都合で11月1日(水)からの開催ではなく4日(土)からの開催と決まりました。

開催前日の11月3日(金・祝)には会場設営が行われ、OMUPや参加大学出版会からも数名が応援に駆けつけ、出版目録やチラシ類の設置、各大学のプロフィールを紹介したパネルの壁面掲示など、書店員に交じって作業を手伝いました。各大学の出展点数はOMUP23点(のち『マゴットセラピー』と『市民社会領域をとりまく公的政策』の2点が加わり合計25点)、大阪経済法科大学出版部80点、大阪大学出版会111点(のちに数点が加わった模様)、関西大学出版部75点、関西学院大学出版会61点、三重大学出版会18点、富山大学出版会3点の合計371点(総合冊数では約1,800冊)でスタートしました。会場のジュンク堂書店大阪本店のイベントコーナーには、5つの書架が置かれ、壁には出品展示に参加した各大学出版部の沿革、モットー、さらには理事長などのプロフィールまでも示されるなど、この種のブックフェアとして各大学の特徴を出し、競い合ったものになり、来場者もそれなりに多く、好評だったようです。ブックフェア開催と同時に記念講演も3日にわたって開催されました(後述)。また、ブックフェアの様子は産経新聞や業界紙にも紹介され、OMUPの活動が業界や一般に認知される良い機会ともなりました。このブックフェアによりOMUPの名が出版業界には普及したと思いますので、その出版活動がさらに活発となり、今後多くの読者を獲得することを希望します。

フェア期間中のOMUPの書籍の売れ行きは、『食文化、東と西』、『大阪の精神医療』、『満月が大きく見える』などの比較的廉価なブックレットの良さが目立ちました。また、OMUPユニヴァシリーズの『地球学へのいざない』も最終日には残り1冊となっていました。ただ残念ながら1冊も売れなかった書籍もあったことも付記しておきます。

(文責・金井)

講演会シリーズの報告

講演会はフェア期間中、延べ3日間で6人の講師によるものでした。その概要を以下に報告する次第です。過去13回にわたって実施してきたOMUPサロンの形式に則って、各出展大学出版会から執筆された方を中心に、著書への思い入れ、裏話・苦労話等を交えた肩の張らない各人各様な内容でした。残念ながら宣

伝の不十分さと天候の不順、それに会場の分かり難さもあって、参加者が少なかったのは主催側としては残念でありました。

まず第1回は11月4日、フェア初日の土曜日だったためか聴衆は少なかったのですが、

1. 読売テレビディレクター 神松一三(かんまつ・いちろう)氏は「日本テレビ放送網構想と正力松太郎」(同名で三重大学出版会から刊行)の演題で、早稲田大学大学院経済学研究科修士課程に社会人入学して取り組んだ修士論文の力作を、三重大学出版会の「日本修士論文大賞」に応募され、見事栄冠を得た方です。戦後のアメリカからのマスコミ包囲構想と公共放送、民間放送の生々しい推移と明確な論証をされ、聴衆に深い感銘与えるとともに、マスコミの現況を理解するのに有意義で、時間超過するものも忘れるほどでありました。

2. 大阪市立大学教授 平澤栄次氏の「満月が大きく見えるー体内時計が発振する暮らしのリズムー」は、あとがきにも記されているように、いわばこのブックフェアに間に合うように出来上がったOMUPブックレットNo.10の著書の解題でもあります。大阪市立大学の第35回市民公開講座の講義資料をもとにまとめられたものではありませんが、我々の日ごろの生活に身近な現象を優れた科学的眼で解き明かす、各種の工夫をご披露いただいたのは、さすが経験豊富な先生ならではのお話、中学生、高校生や、小学生にも聞かせたいほどの講演でした。

第2回の11月18日(土)は比較的聴衆は多く、

1. OMUP常務理事(大阪府立大学名誉教授) 足立泰二が「出版、もうひとつの社会貢献ー助成出版のすすめー」として、OMUPの出版理念、目標を置いて、設立以来の歩みと、進捗状況を話し、今回のブックフェアと助成出版の意義を説明しました。

2. 関西大学名誉教授の渡邊幸博氏が「哲学と哲学書の周辺」(関西大学出版部より4冊の哲学書を出版)の演題で、難しい哲学を取り巻く問題を分かりやすく、しかも重要文献のポイントを丁寧な解説にも熱弁を振るっていただきました。



最終回の第3回は12月9日(土)、街がクリスマス、年末のあわただしくなるなか、

1. 大阪大学教授 福井希一氏が「自然科学系書籍刊行の現状と将来ー著者の立場からー」と題した講演をしていただきました。時間軸に生物学特に遺伝学の発達を置き、その時々書籍の果たした役割について書籍実物を持込んでの熱烈講演には、日進月歩、いや分、秒単位で競争しあう自然科学の中にあっても、活字と映像とを組み合わせるなどの提案もあり、知と学の

展開の重要性を切々と説く、名講演とも言えるものでありました。

2. 最終講演は神戸女子大学講師 阿部敦氏の「市民社会領域を取り巻く公的政策ー従属化・管理化・脱平和への道ー」(OMUP新刊)と同名の講演でした。同氏はすでにOMUPから3冊の出版があります。いつもながら若さあふれる雄弁な口調で、福祉社会の現状の問題点一つ一つに鋭い感性とバランスの取れた主張を展開するものでありました。

なお、恒例により講演後は3回とも、近くのレストランで懇談の時をもち、いわば異分野融合の和やかな中にも活発な討論が繰り広げられました。(文責・足立)

第14回 OMUP サロン(公開)の案内

今回は、11月に出版された「マゴットセラピー・ウジを使った創傷治療」の記者である大阪市立大学の沼田英治先生と岡山大学の三井秀也先生を迎え、公開講座形式でサロンを開催いたします。お二人の先生には、刊行に至るまでの経緯とご思い入れ、エピソードなど、とっておきのお話を語っていただきます。お誘いあわせのうえ、ご参加ください。

日時：平成19年2月23日(金)午後3時～午後5時

場所：大阪市立大学医学部学舎 18 階会議室

演題：マゴットセラピー ウジを使った創傷治療

なお講演終了後、両先生を囲んで懇談パーティを予定しています。詳しくはチラシをご覧ください。

新刊書の案内



OMUP ブックレット No. 10

満月が大きく見える

ー体内時計が発振する暮らしのリズムー

平澤 栄次著(大阪市立大学大学院教授)

ISBN4-901409-27-1 C1345

定価 840 円

月光が体内時計に情報を入力することによって、満月が大きく見えるという仮説のもとに、生物が持つさまざまな体内時計の仕組みを解説しています。



マゴットセラピー

W.フライシュマン、M.グラスベルガー、

R.シャーマン共著

沼田 英治(大阪市立大学教授)

三井 秀也(岡山大学医学部助手)共訳

ISBN4-901409-25-5 C3047

定価 2,730 円

ヒロズキンバエの幼虫であるウジをヒトの足の潰瘍部に置くことにより、その壊死組織を食べさせ、患部を清浄とし、潰瘍を治す新しい治療法についてわかりやすく説明しています。

日本環境変異原学会で展示販売

平成 18 年 11 月 20、21 日に堺市で開催された日本環境変異原学会第 35 回大会(大会長：八木孝司 大阪府立大学教授)において、大阪公立大学共同出版会(OMUP)の書籍展示販売をサイエンスアシストの担当で催しました。販売価格を 20%OFF にしたことも功を奏したのか「クロモソーム」が 7 冊売れたのを始め、食文化・食育関係が 6 冊、医療・保育関係が 4 冊等合計 22 冊、40,650 円の売り上げでした。その中で、「クロモソーム」はオールカラーでないのが惜しい、「ブックレット」はコンパクトに納まっているにも拘らず、内容が充実していてこの価格はお買い得との声が聞かれました。

今回、多くの人の目にふれ書籍の購入にまで辿り着けたことで、少しでも OMUP の存在を認識してもらえたのではないのでしょうか。今後こういった機会を作っていけたらと思います。会員の皆様方からの情報をお待ちしています。

(サイエンスアシスト)

大阪公立大学共同出版会事務局

大阪公立大学共同出版会は、大阪市立大学及び大阪府立大学の教職員有志ならびに趣旨に賛同する個人及び団体の自主的な参加を得て、研究・教育成果の発表を助成するため、商業出版社において採算上刊行を引き受けられないような優良学術図書・学術報告書はもとより、教養図書、教科書及びその他の図書を刊行頒布し、もって広く市民や学生に大学における研究・教育の成果を還元するとともに、地域における学術の振興及び文化の発展に貢献することを目的として設立された特定非営利活動法人(NPO 法人)です。参加を希望される方は下記事務局へお問い合わせください。

590-0035 大阪府堺市堺区大仙町 2-1

大阪府立大学大仙キャンパス内

NPO 法人大阪公立大学共同出版会(OMUP)事務局

電話：072-222-4844 ファクシミリ：072-244-9300

e-mail：omup@hs.osakafu-u.ac.jp URL：<http://www.omup.jp/>

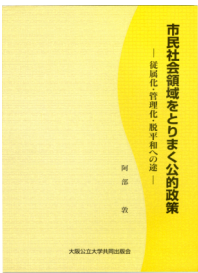
入会金：一口一万円(一口以上)

振込先：三菱東京UFJ銀行 中もず支店 普通 3976510

編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年一年を振り返ると明るい話題もあったはずなのに、なんだか暗いニュースばかり目につきます。今年は小さくても光輝くニュースを大切に、明日への希望を見だしつつ毎日過ごしていきたいものです。また、溢れんばかりの情報の時代に逆行するようですが、先人の知恵を拝借しつつ、自分の目で確かめ一歩ずつ前進できたらと思っています。(N.K)



市民社会領域をとりまく公的政策
— 従属化・管理化・脱平和への途—
阿部 敦著(神戸女子大学講師)

ISBN4-901409-26-3 C3036

定価 3,150 円

『本著作は、「阿部作品としては珍しく」と言っていいたろうが、かなり明確に阿部氏の世界観・価値観を前面に出

しながら、現代社会のありようにメスを振るっている』

— 立命館大学教授 安斎育郎氏からの寄稿文より

「OMUP 会員が新入生にすすめる本」

第 5 号の原稿募集のお知らせ

毎年新学期が始まると同時に発行している小冊子『OMUP 会員が新入生にすすめる本』は、読書離れが進む若い人たちに本の魅力を伝え、かつ「人生を変える 1 冊の本」を探し当てる良き指針になると大変好評です。今年も 4 月下旬発行を目標に原稿募集を始めます。OMUP 会員の皆様の原稿をお待ちしていますので募集チラシをご覧ください。

新顔登場

平成 18 年 9 月より当出版会の営業活動のアドバイザーとして参加していただく事になりました。頼もしい仲間を得て心強い限りです。

大阪市立大学生協シェリー

書籍・TOEIC 講座担当 尾澤賢持
ショップの本の担当をしております。新刊が本当に多くなり、大学で必要な本を選ぶ目利きができる力量が必要になってきています。微力ながら、普段の本との関わりが役たてれば幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。



大阪市立大学生生活協同組合

専務理事 林秀雄

脳みそのシワにもならない下世話な本から、私の脳みそのシワではとても太刀打ちできないカタチ本まで、ストライクゾーンも広く構え、本のタイトルに脳みそのシワがピン！と来れば真に手当たり次第に手を出しています。今後ともよろしくお願い致します。



